

令和 3 年度 事業報告書

(令和 3 年 4 月 1 日～令和 4 年 3 月 31 日)

目 次

I 法人の概要

- 1 法人の名称
- 2 法人の所在地
- 3 認可年月日
- 4 沿革及び学園の組織
 - (1) 学園の沿革
 - (2) 学園の組織
 - (3) 役員及び監事・評議員の氏名及び役職名
 - (4) 役員賠償責任保険の内容
 - (5) 設置する学校・園の名称及び所在地
 - (6) 設置する学校・園等の入学定員及び学生・生徒・園児数の状況
 - (7) 設置する学校・園・学科等教員・保育士数の状況

II 事業の概要

※各学校・園の事業報告は別紙資料の通り

III 財務の概要

※別紙資料の通り

学校法人 三浦学園

I 法人の概要

1 法人の名称

学校法人 三浦学園

2 法人の所在地

東京都品川区豊町二丁目 16 番 12 号

3 認可年月日

昭和 19 年 3 月 31 日

4 沿革及び学園の組織

- (1) 学園の沿革 (別紙参照)
- (2) 学園の組織 (別紙参照)
- (3) 役員及び監事・評議員の氏名及び役職名

① 理事・監事

〈令和 4 年 3 月 31 日現在〉

役職	選任事項	氏名	現職
理事長	第 2 号 理事	三 浦 洋 義	学園長
常務理事	第 2 号 理事	三 浦 裕 明	理事長補佐
理事	第 1 号 理事	若 林 彰	有明教育芸術短期大学学長
理事	第 3 号 理事	富 永 光太郎	(株)リヴィジョン代表取締役社長
理事	第 3 号 理事	陰 山 雄 司	岩井機械工業株式会社主幹
理事	第 3 号 理事	森 戸 由 久	創価女子短期大学名誉教授
監 事		朝 倉 和 行	(株)朝倉代表取締役
監 事		北 島 芳 昭	(学)井之頭学園法人事務局長

② 評議員

役職	選任事項	氏名	現職
評 議 員	第 1 号 評 議 員	三 浦 洋 義	学園長・理事長
評 議 員	第 1 号 評 議 員	三 浦 裕 明	常務理事・理事長補佐
評 議 員	第 1 号 評 議 員	中 西 菊 乃	有明教育芸術短期大学事務局次長
評 議 員	第 1 号 評 議 員	雨 宮 伸太郎	法人事務局次長
評 議 員	第 1 号 評 議 員	小 菅 雅 之	法人事務局経理課長
評 議 員	第 1 号 評 議 員	渋 谷 匡	有明教育芸術短期大学事務局広報課長
評 議 員	第 1 号 評 議 員	田 中 美 恵	日本音楽学校保育園長
評 議 員	第 2 号 評 議 員	水 本 眞 澄	日本音楽学校幼稚園長
評 議 員	第 2 号 評 議 員	平 井 キミ子	日本音楽高等学校同窓会監査

評 議 員	第 2 号 評 議 員	新 井 清	(有) 希望商事代表取締役
評 議 員	第 3 号 評 議 員	磯 是 詔	元法人事務局長
評 議 員	第 3 号 評 議 員	根 本 美 香	根本美香バレエスクール主宰
評 議 員	第 3 号 評 議 員	細 田 洋 平	合同会社よすが学院 代表

(4) 役員賠償責任保険の内容

理事会決議により、令和3年6月1日から役員賠償責任保険に加入

1. 団体契約者

日本私立中学高等学校連合会

2. 被保険者

理事、監事、評議員及び管理職職員

3. 主な補償内容

法律上の損害賠償責任に基づく賠償金、争訟費用等

4. 保険加入期間中の総支払限度額

1億円

(5) 設置する学校・園の名称及び所在地

名称	所在地
有明教育芸術短期大学 子ども教育学科	〒135-0063 東京都江東区有明二丁目9番2号
日本音楽高等学校 普通科 (幼児教育コース) 音楽科 (幼児教育コース) (音楽コース) (バレエコース) (舞台芸術コース)	〒142-0042 東京都品川区豊町二丁目16番12号
日本音楽学校幼稚園	〒142-0042 東京都品川区豊町二丁目16番12号
日本音楽学校保育園	〒142-0042 東京都品川区豊町二丁目16番12号

(6) 設置する学校・園等の入学定員及び学生・生徒・園児数の状況

〈令和3年5月1日現在〉

	入学 定員	収容 定員	学生生徒園児 現 員 数	令和3年度 入学者数
有明教育芸術短期大学	100名	300名	222名	84名

子ども教育学科	100	300	222	84
日本音楽高等学校	100	300	161	42
音楽科（幼児教育コース）	100	300	25	7
（音楽コース）			33	6
（バレエコース）			40	10
〈舞台芸術コース〉			63	19
日本音楽学校幼稚園	35	150	89	28
日本音楽学校保育園	9	26	26	4

(7) 設置する学校・園教員・保育士数の状況（令和3年5月1日現在）

①短大教員

設置校名	教授	准教授	講師	助教	助手	合計	兼務者
有明教育芸術短期大学	7	7	0	1	0	15	25

*学長は教授に算入

②高校教員・幼稚園教員・保育園保育士

設置校名	専任教諭・保育士	兼務者
日本音楽高等学校	18	51
日本音楽学校幼稚園	5	5
日本音楽学校保育園	12	1

II 事業の概要

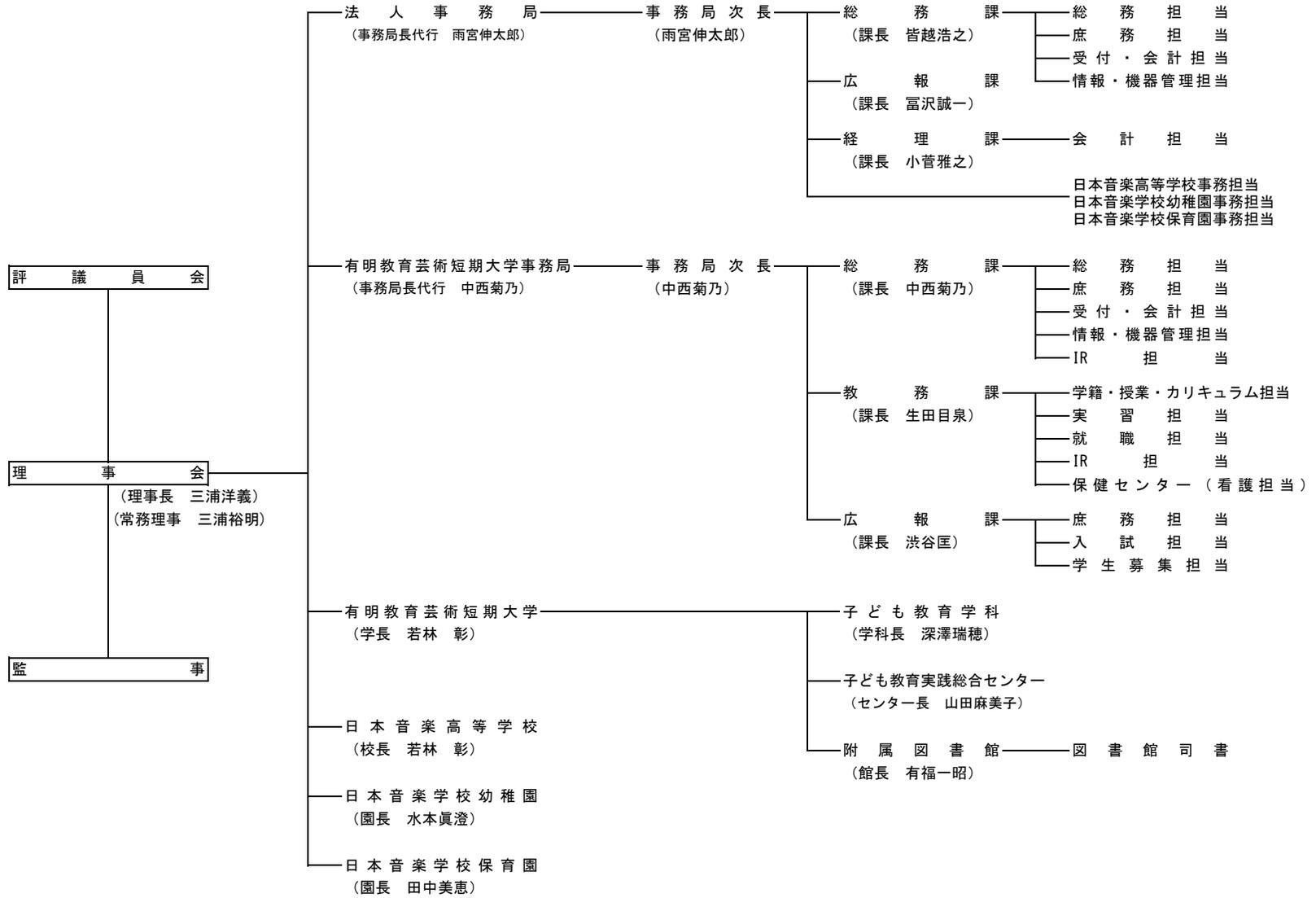
※各学校・園の事業報告は別紙資料の通り

III 財務の概要 別紙資料の通り

法人沿革	明治36年	山田源一郎により我が国初の私立音楽学校「音楽遊戯協会」として神田淡路町に創立
	明治39年	女子音楽学校(女子)・日本音楽協会(男子)に名称変更
	大正13年	校舎を中野打越に移転
	昭和2年	日本音楽学校に名称変更。創立者・初代校長 山田源一郎死去
	昭和19年	学校法人三浦学園成立(3月31日)
	昭和22年	校舎を品川区豊町に移転
	昭和24年	日本音楽学校附属幼稚園および日本音楽学校附属入新井幼稚園を設置
	昭和25年	日本音楽学校附属豊小学校、日本音楽学校附属豊中学校、日本音楽高等学校を設置
	昭和28年	日本音楽学校に我が国初の教員養成機関(中学校音楽教諭養成科)を設置し、文部大臣の指定認可を受ける
	昭和29年	日本音楽学校に文部大臣指定の幼稚園教諭養成科を設置
	昭和36年	日本音楽学校附属入新井幼稚園を廃止
	昭和47年	日本音楽学校に厚生大臣指定の保母養成科を設置
	昭和53年	日本音楽学校が専修学校に認可
	昭和63年	日本音楽学校創立85周年事業の一環として2号館校舎(教室、中ホール)竣工 日本音楽高等学校 音楽科「バレエコース」設置
	平成4年	日本音楽学校創立90周年事業の一環として三浦記念館(大ホール、幼稚園舎、視聴覚教室、特別教室)竣工
	平成5年	三浦洋義理事長及び学園長に就任
	平成7年	日本音楽学校附属豊小学校及び日本音楽学校附属豊中学校を廃止
	平成9年	日本音楽学校にレクリエーション・インストラクター資格者と児童厚生指導員の養成課程設置
	平成11年	厚生大臣指定東京聖星社会福祉専門学校(介護福祉学科)設置
	平成13年	日本音楽学校保育園設置
	平成14年	日本音楽高等学校 普通科「幼児教育コース」設置
	平成15年	日本音楽学校創立100周年
	平成20年	有明教育芸術短期大学 認可(10月31日)
	平成21年	有明教育芸術短期大学子ども教育学科及び芸術教養学科の二学科で開学
	平成22年	日本音楽学校を廃止 日本音楽学校附属幼稚園を日本音楽学校幼稚園に園名変]
	平成23年	日本音楽高等学校 音楽科「舞台芸術コース」設置 東京聖星社会福祉専門学校を廃止
	平成26年	有明教育芸術短期大学芸術教養学科学生募集停止
	平成27年	有明教育芸術短期大学芸術教養学科廃止
	平成28年	日本音楽高等学校 普通科募集停止
	平成29年	日本音楽高等学校 幼児教育コースを音楽科として募集
平成30年	有明教育芸術短期大学創立10周年	

I - 4 - (2) 学園の組織

(令和4年3月31日)



令和3年度 有明教育芸術短期大学 事業報告

1 教育課程

(1) 教育課程の実施 新型コロナ感染拡大予防に向けての実施

本年度も新型コロナ感染拡大予防、緊急事態宣言、及びまん延防止等重点措置が発出され、それに合わせた授業及び行事等を展開した。

①4月25日～6月20日 7月12日～9月30日 (緊急事態宣言中)

オンライン授業(遠隔授業)及びハイブリット授業(1つの授業を対面+オンラインで同時に行う授業)に切り替えて実施。

(5月6～8日ゴールデンウィーク期間 学内への立ち入り禁止、全面的オンライン授業)

②10月1日以降 (まん延防止等重点措置)

対面授業とハイブリット授業を活用した授業運営

③ その他

新型コロナウイルス感染拡大予防対応のため、入学式及び学位記授与式は変更して実施となった。

(ア) 入学式 規模を縮小して実施(新入生、教職員のみ参加)

(イ) 入学前教育(選択課題 -ピアノ実技講座の受講) 感染防止を徹底して実施

※ 必修課題 -読書感想文 実施

選択課題 -保育関連施設調査レポート- 実施

(ウ) 学位記授与式 令和4年3月23日(水) 規模を縮小して実施

卒業生、保護者(1家族1名のみ)、教職員のみ参加

(2) 教育課程の整備

「令和3年度私立大学等改革総合支援事業(「タイプ1 特色ある教育の展開」)」が掲げる調査票に基づき、31の視点から整備した。整備の結果については、私立大学事業団に申請したところ選定大学となった。(令和元年度選定 令和2年度選定不可)

なお、申請時に実施した自己評価は75/96点であり、申請校(四大を含む)554校中選定されたのは117校(選定率21%)である。(昨年度23%)

- | | | | | |
|---------------------|--------------------------|-----|-------|--------------------|
| ＜私立大学等改革総合支援事業整備状況＞ | | ○整備 | △一部整備 | ×未整備 |
| ○ | 全学的な教学マネジメント体制の構築 | | | |
| △ | IR機能強化 | | | →職員をIR講師としての派遣(不可) |
| ○ | 卒業時アンケート調査の実施・公表 | | | |
| ○ | アクティブ・ラーニング型の科目の開設 | | | |
| ○ | 情報リテラシー科目の開設 | | | |
| ○ | ICTを活用した双方向型授業や自主学習支援の実施 | | | |
| ○ | GPA制度の導入及び活用 | | | |
| ○ | CAP制の設定 | | | |
| ○ | ティーチング・ポートフォリオの導入・活用 | | | |
| ○ | 大学の教育活動への学生の参加促進 | | | |

- 学修成果等の可視化
- 学修成果の企業等との意見交換の実施
- 学力を多面的・総合的に評価する一般選抜の実施
- 一般選抜における記述式問題の出題
- 総合型・学校推薦型選抜における基礎学力把握
- 入学者選抜の多面的・総合的な評価及び学生の能力を伸長するための取組
- アドミッション・オフィサーの配置
- × 「数学」「情報」の試験問題の出題 →対応不可（国語・現代社会 出題中）
- 入学予定者への課題提示
- 高大連携教育と大学教育の連携強化
- 入学者選抜の妥当性の検証
- × IR等の知識を有し、データ分析を実施する専門家の配置
→IR専従職員の配置
- 卒業後アンケート調査の実施・公表及び調査結果の教育活動等への活用
- △ 数理・データサイエンス・AI教育に係る科目の開設
→データサイエンス必修科目未開設
- × 分野・学部等を超えたカリキュラム編成の検討・改善 →単科の為不可
- × 分野・学部等を超えたカリキュラム編成の実施 →単科の為不可
- インターンシップ科目の実施
- 実務家教員の教育課程編成への参画
- × 主専攻・副専攻制等による履修 →単科の為不可
- △ 学事暦の柔軟化に関する取組 →1/4学期の未設定
- 教育リソースの活用

2 教員人事（令和3年度～4年度異動）

(1) 退職者：専任教員1名、非常勤4名

- 専任 橘 和代 （准教授）
- 非常勤 宮脇 文恵 （担当科目「社会福祉」）
- 山崎 美穂 （担当科目「情報教育」「算数科指導法」）
- 小川実可子 （担当科目「音楽Ⅰ うたと楽器」）
- 篠原 俊明 （担当科目「レクリエーション」）

(3) 採用者：専任教員1名、非常勤5名

- 専任 角杉美恵子 教授（担当科目「体育Ⅰ」「事前事後の指導(保育所)」）
- 非常勤 佐野 匡 （担当科目「情報リテラシー」）
- 福田 俊彦 （担当科目「算数科指導法」）
- 坂田 舞子 （担当科目「音楽Ⅰ うたと楽器」）
- 堀内 亮輔 （担当科目「レクリエーション」）
- 前田 優二 （担当科目「社会福祉」）

3 自己点検・評価

(1) 情報公開

令和2年度の教育課程に関する自己点検・評価をホームページで公開した。

(2) 第三者（学外有識者）による点検・評価

本年度は、新型コロナウイルス感染拡大予防対応のため、対面の会議は行わず、委員への資料の送付、委員の評価、返信による点検とした。令和元年度における本学の3つのポリシー（カリキュラムポリシー、アドミッションポリシー、ディプロマポリシー）及び地域連携・貢献に関する諸活動について点検・評価を受けて承認を得た。

(3) 3年度自己点検・評価報告書作成（令和4年6月完成）に向けた準備

令和4年度に大学・短期大学基準協会より機関別評価を受ける。6月末までに自己点検評価を完成させるつもりである。それに向け令和3年度の自己点検を各委員会で開催し、報告書案の作成を進めた。

4 教員評価の実施

令和元年度9月に制定した「有明教育芸術短期大学教員活動評価実施規程」をもとに、教員評価活動は本年度も実施した。本学3度目の実施となる。

教員評価は本学教員が、自己の活動を点検し、評価することを通して、本学の教育研究活動の活性化を促進し、教員の諸活動への支援・啓発、本学の教育、研究及び社会貢献等の改善・向上に資するためである。対象者は、前年度1年間、本学の専任の教授、准教授、講師、助教であったものとする。評価は、「教育」「研究」「社会貢献」「管理・運営」の4領域としA～Dの評点に基づいて自己点検評価を行う。

<評価内容>

(1) 教育

①授業担当科目 ②学生の授業評価 ③教育方法の改善等 ④FD活動 ⑤サークル活動等 ⑥学生支援

(2) 研究

①学術論文・著作等 ②学会等における研究発表 ③芸術・体育系分野の業績
④外部研究費の導入実績

(3) 社会貢献

①学会の役員、論文審査委員等 ②公的機関から委嘱された審議会、委員会等の委員
③公的機関から依頼された研修会等の講師等 ④公開講座等

(4) 管理・運営

①全学的委員会及びその他の貢献実績 ②入試業務関連 ③管理職の実績

(5) 反省、省察

12月に教員活動評価実施要項に基づき、対象教員の令和2年度における教員活動評価を実施した。（提出者は13名中12名）

教員活動報告書に加えて、授業改善報告書を作成した4名に対し、規定に基づき顕彰を行った。（学長奨励賞 ・菊地大介 ・長田信彦 ・赤坂澄香 ・松田芙美子）

5 研究活動

(1) 有明教育芸術短期大学紀要第13巻

・原著論文 5編 研究ノート 2編

<原著論文>

- ① いじめ問題に係る生徒指導における取組 ～小学校での早期発見・早期対応の実践及びいじめの傍観者に関する考察～
(教授 池口洋一郎)
- ② 外国語の指導をより効率的、効果的に行うために －「外国語活動」と「外国語科」一本化への提案ほか－
(教授 石井友行)
- ③ 子どもの言葉の発達と絵本の読み聞かせ
(教授 長田信彦)
- ④ 子どもの表現に関する一考察 ～保育者養成校学生に必要な学びに着目して～
(教授 山田麻美子)
- ⑤ 「子ども観」のアセスメント方法の開発に向けた基礎的研究
－心理学的技法を応用して－
(准教授 赤坂澄香)

<実践研究>

- ① 保育内容「環境」における授業実践の考察-指導者としての資質能力の育成を目指して
(教授 深澤瑞穂)
- ② 保育者養成校におけるピアノ初心者への支援のあり方について
(助教 伊藤菜々子)

(2) 子ども教育総合センター紀要第5巻

・原著論文 3編 実践研究 2編

<原著論文>

- ① 子どもたちに豊かな言葉を育む言語環境の在り方
(教授 長田 信彦)
- ② 現代アートを活用した「総合的な学習の時間」の充実
(教授 石井友行)
- ③ 保育実践におけるデモクラティック・エデュケーション
－かかわり合いの構造とプロセスに注目して－
(准教授 菊地大介)

<実践研究>

- ① 保育・教育を目指す大学生の障害児に関する意義と授業改善について
(教授 池口洋一郎)
- ② 就学前教育に関する一考察 ～学内講座からの学生の学びを通して
(教授 山田麻美子・准教授 信太朋子)

6 募集対策

(1) オープンキャンパス

延べ309名が参加した。(令和2年度329名)開学以来2回目の参加者総数300名超えとなった。そのうち受験対象者数は176名(令和2年度149名)と増加傾向である。高校1・2年生の参加者数もコロナ前に戻ってきている。参加者アンケートで在学生に関する記載が多く、学生スタッフの活躍の必要がある。コロナ禍の影響からか地方出身者が大きく減少した。そのため、今後の募集では一都三県で特に通学圏地域からの受験者確保に重点を置く必要がある。



7 退学者

9月末に退学者が5名(2年度比+2名)現れた。病気(1名)ないし進路変更就職(1名)、学習意欲喪失(3名)が理由である。年度末に2名(2年度比0)、通信制大学、4年制大学への進路変更である。その他除籍が1名である。教員及び教務課職員によるきめ細かな個別対応の成果が上がったと考えている。

8 学生生活

(1) 新入生研修

本年度は新型コロナウイルス感染拡大予防対応を受け、中止となった。

(2) 縦割りクラスによる授業

「ライフキャリア演習Ⅰ～Ⅳ」を縦割りクラスによる授業を行い、上級生と下級生の人間関係の構築に寄与した。

(3) 有明祭

新型コロナウイルス感染拡大予防対応のため、例年の活動は中止となったが、感染者数が落ち着きを見せ始めてきたので、感染防止を徹底して縮小実施した。具体的には、外部からの来場は全て禁止、全員マスク着用の上、1日のみでの仮装大会を実施した。

また、学生が撮影したサークル活動やパフォーマンス発表の動画を、当日会場での上映とYoutubeで公開した。例年とは違う形態ではあったが、学生の活動意欲は、大変高いものがあった。

(4) サークル活動

新型コロナウイルス感染拡大予防対応のため、年度当初からサークル活動は中止となった。

9 キャリア形成・就職支援

公立小学5名、公立幼稚園1名が合格。 キャリア形成・就職支援の充実を図った。

(1) 公立小・幼・試験対策プログラム『夢 Realize (通称：ユメリア)』の創設

『夢 Realize (通称：ユメリア)』とは、公立小学校教諭・幼稚園教諭・保育士・児童館職員等を目指す学生が、夢の実現（公立試験合格）に向けて自主的かつ協働的な学びを行うための支援プログラムを立ち上げた。

ねらい	1年次から目標を明確にし、3年間の主体的な学習を通して夢の実現を図る。
受講対象者	公立小学校教諭・幼稚園教諭・保育士・児童館職員等を目指す学生
実施内容	同じ目標をもった学生が学習グループをつくり、学生が主体となって採用選考試験に向けて筆記試験や論作文、面接試験の対策・練習をする。 採用選考試験終了後は、現場で対応できる力を身に付ける学習をする。 それぞれのグループには指導員が付き、学習の進め方や論作文・面接の指導・助言を行う。また、グループ学習のほか、個別相談・指導にも対応する。 ※キャリアサポートセンターでは、曜日限定で「公立試験対策講座」を実施。
指導員	・学科教員 ・キャリアサポートセンター職員

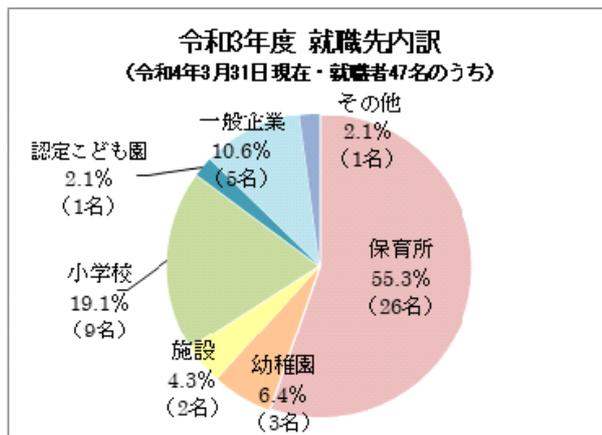
12月に第1回を実施、参加者は46名である。

(2) 就職状況

令和3年度卒業生		計	男	女
卒業生数		52	9	43
希望進路	就職	49	9	40
	進学	0	0	0
	その他	3	0	3
決定進路	就職	47	9	38
	進学	0	0	0
	その他	0	0	0

就職先内訳

保育所	・	55.3%	(26名)
幼稚園	・	6.4%	(3名)
施設	・	4.3%	(2名)
小学校	・	19.1%	(9名)
認定こども園		2.1%	(1名)
一般企業	・	10.6%	(5名)
その他	・	2.1%	(1名)



10 地域等との連携・貢献

本年度も、新型コロナウイルス感染拡大予防対応のため、多くの取組みが縮小実施
或いは中止となった。

(1) 江東区との連携事業

- ① 江東区立の幼稚園・保育園への学生ボランティア派遣
幼稚園 1 名 江東区立南陽幼稚園
保育園 1 名 江東区立東雲第二保育園
- ② 江東区子どもまつりへのボランティア参加
子ども祭り中止

(2) 講習会・講座・研究会

- ① 教員免許状更新講習
2021年8月10日(火)～2021年8月19日(木) 9講座開設 58名受講
- ② 公開講座・子育て講座 中止
- ③ 実践教育研究会
対面会議は中止し、質問紙による調査を実施した。

(3) 子育て支援

- ① 親子サロン 中止
- ② 子ども発達相談
相談件数 1 ケース

(4) 近隣に住む子ども対象の催し

- ① 水の日イベント 中止
- ② クリスマス訪問演奏 中止
- ③ 子供たちとともに 中止

(以 上)

令和3年度 日本音楽高等学校 事業報告

1 学習活動

専攻実技や専攻実習の技能と表現を高める指導とともに基礎的な学力の定着・学習意欲の向上・希望の進路を実現する学力の向上を図るための指導を進めた。（※各コースの専攻実技や専門の授業も『学力』として捉えることを周知した）

(1) 朝学習、夏期休業中の講習及び各種検定の実施

- ・定期考査前2週間の朝学習（実施時間 7:40～8:10）

国語：月・木 数学：金 英語：水・木 音楽：火

コロナウィルス感染防止のため一部未実施

- ・夏期休業中の講習の実施 オンラインで実施

教科ごと日程を決めて実施した。

(2) 「フォーサイト手帳」の使用

自己管理能力育成のため、学習予定を自己管理する「フォーサイト手帳」を使用した。教員がチェックすることで、逆に学習の自律を妨げている面も懸念された。

日々の専攻レッスンや実習に向けて、練習や準備が進むように年2回のアンケート調査を実施、結果を「フォーサイト手帳」に反映させ、加えて一般教科の学習予定を効果的にたてさせた。

(3) コンクール、コンテストについて

今年度も、新型コロナ感染防止対策の影響でたくさんのコンクールやコンテストが延期や中止となった。主な参加は以下の通りである。

- ・はるのコーラスコンサート（はるコン） 銀賞
- ・東京都合唱祭出演
- ・環境ミュージカル出演
- ・NHK 全国学校音楽コンクール 本選出場 銀賞
- ・日本管楽合奏コンテスト 優秀賞

(4) 高大連携

- ・有明教育芸術短期大学子ども教育学科

参加生徒：幼児教育コース全員

内容：模擬授業 「うたと手遊び」 4～7月

「子どもの文化」 9～2月

(5) 修学旅行

- ・3年生 4月13日～15日 南紀和歌山方面

2年次の2月はコロナ感染拡大のため実施中止とし、感染状況が落ち着いてきた4月上旬に実施した。旅行会社、各施設の徹底した対策の下、実施した。

・2年生 3月8日～10日 沖縄方面

生徒各家庭から、参加、不参加、方面などについての意見交換を行い、沖縄方面での実施を決定した。

2 生徒指導

(1) 基本的な生活習慣の確立

建学の精神と教育目標を額に入れ、全教室へ掲示して、愛校心とともに意識向上を図った。また、生活目標「あ：あいさつ、じ：時間、み：身だしなみ、こ：言葉遣い、し：姿勢」について教員の指導を徹底するとともに生徒会の取組の一つとしても様々な場面の活動を行った。

(2) 校則・ルールの見直し

校則・ルールについて大幅に見直しを行った。校則・ルールをただ守らせるから、生徒自身がなぜ守らなければならないのかを考えさせるようにした。4年度からの制服についても、着こなし方を生徒自身で考えられるようにするなど、自主性を重んじる生徒指導の在り方について教員の意識改革を行った。

(3) 年2回「心と体のアンケート」の実施

定点観測して養護教諭の分析及び担任へ周知し、生徒の生活改善・生徒指導に活かした。また、三者面談で保護者への啓発にも活用した。

3 各学年における指導

(1) 1年生

建学の精神である「愛と和と誠実」についてしっかり理解させるとともに学校に慣れることを第一に指導に当たった。また、3年後の進路実現にむけて、学年集会で指導を進めてきた。コロナ禍のため、当初予定していた校外学習が1学期から3学期へと変更になるなど、学年の仲間としての繋がりや和をはぐくむことが持ちにくかったが、合同授業を通して学級を超えた人間関係を築くことができた。

(2) 2年生

新型コロナウイルスの影響を受け、様々な予定していた各行事が行えず、学年間の和を作りあげていくのに若干時間がかかった。修学旅行については10月から保護者の意見なども聴取したうえで、行く先を沖縄方面に決定し、3月実施となった。「平和学習」と「沖縄文化体験」の学びを達成するとともに、自主性を重視した活動を行い有意義なものとなった。友人関係の深まりとともに、最高学年への意識を高めることができた。進路については、学年通信を中心に情報を発信し、三者面談を通して、進路への意識を高めた。

(3) 3年生

最高学年としての自覚と責任を持ち、学校に貢献できることをキャッチフレーズに指導を進めた。希望進路実現のため、二者面談、三者面談を繰り返し実施し、意識の向上と受験準備を進めさせた。修学旅行については、南紀紀州方面に変更して、4月当初に実施することができた。様々校外学習が中止になる中、実施することができ、学年としての和を深めることができた。卒業公演は、コロナ禍で様々な変更があったが、「コロナに負けない」と常に前向きに取り組み、公演を無事終了させることができた。卒業式は短縮版での実施であったが、全員が出席することができた。

4 進路指導

(1) 個に応じた進路指導

①フォーサイトの活用…各コース別の具体例を作成して、生徒に配布した。

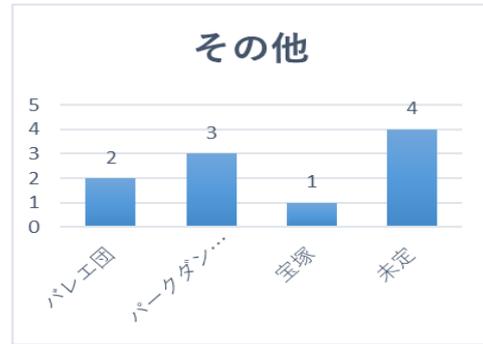
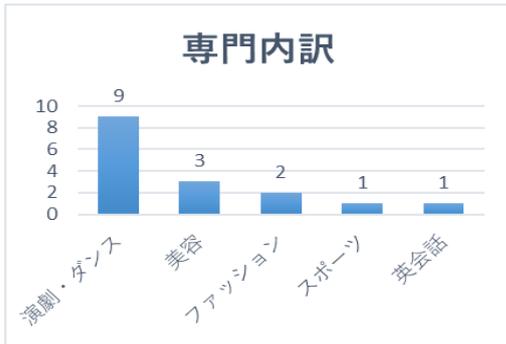
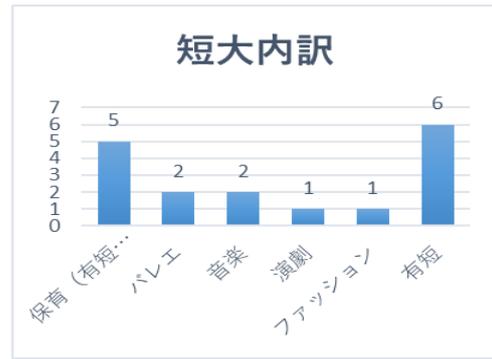
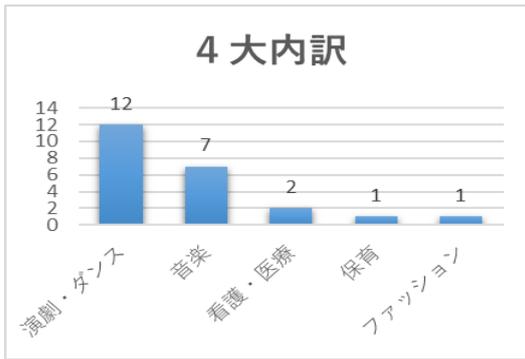
長期休業中の模範例を作成して配布した。担任と進路指導部長で、一ヶ月に2回のチェックをした。

②基礎学力の育成…教務部の協力を得て、夏期講習を実施した。国語・英語・数学は2名ずつ専任教員がいるため、基礎と応用で実施することができた。

③進路への意識付け…面接対策講座、オープンキャンパスのレポート、仕事調べ、進路ガイダンス、進路体験報告会等を実施した。3年生の面接対策講座は、6月に実施した。

(2) 令和3年度の進路状況





5 生徒募集

令和3年度 入学者数 ※()内は、昨年度の数

応募96名(56名)・受験93名(55名)・合格93名(55名)・入学76名(42名)

<コース別入学者数内訳> A・・・単願 B・・・併願

音楽	A 11(6)	B 0(0)	一般 5(0)	合計 16(6)
幼児教育	A 7(6)	B 0(0)	一般 0(1)	合計 7(7)
バレエ	A 19(7)	B 1(1)	一般 4(2)	合計 24(10)
舞台芸術	A 21(15)	B 1(0)	一般 7(4)	合計 29(19)
合計	A 58(34)	B 2(1)	一般 16(7)	合計 76(4e2)

※令和3年度入試の傾向

・昨年度と比べ、受験者が7割増となった。学校訪問、ネットによる広報などを通して、体験入学・学校説明会や学校行事等への中学生の参加が増加傾向である。一般入試では、都内生や近隣県の入学生徒は9名(昨年度6名)と増加した。私立中は10名、都外遠距離県の生徒は3名となった。

6 退学等

全校生徒に充実した学校生活を送らせる高い満足度をもてるように指導をしているが、今年度、様々な理由でやむを得ず途中転学または退学した生徒の数は、以下の通りである。個々にその原因は違うが、教員のカウンセリング能力を高めるとともに保護者の理解を含め丁寧な対応と指導で減らしていく必要がある。

1年バレーコース1名は、宝塚音楽学校に合格し、3月末に退学した。

<理由>

- ・病気のため退学
- ・コースの方針と合わず通信制高校に転学
- ・宝塚音楽学校合格入学のため退学

<途中転学や退学者数>

1年	幼：2名	音：0名	バ：2名	舞：0名	計	4名
2年	幼：1名	音：0名	バ：1名	舞：1名	計	3名
3年	幼：0名	音：0名	バ：0名	舞：0名	計	0名
合計	幼：3名	音：0名	バ：3名	舞：1名	計	7名（昨年比 0名）

e

7 開かれた学校づくり

(1) 教育情報の積極的な発信

・本校公式ホームページは、家庭用PCだけでなく、携帯やスマホからも見ることができる。日々の更新を確実にし、情報の発信をしている。日音祭や各コースのコンサート、サウンドオブミュージック、卒業公演なども積極的に配信している。パスワードにより保護者・生徒だけが見られる連絡欄も活用している。中学生が興味・関心をもてる本校の行事の情報や入試に関する情報も配信している。

(2) 三浦学園グループの幼稚園・保育園・有明教育芸術短期大学との連携

・幼児教育コースの生徒による週に1度の併設幼稚園・保育園の実習や行事の手伝い等、連携を深めている。

・有明教育芸術短期大学と高大連携として幼児教育コースの特別授業を行った。短大での授業体験&見学会など実施し、日音から6名が入学した。

(3) 地域との連携

・荏原第五地区の清掃ボランティア活動に参加した。

・日音祭やサウンドオブミュージック上演に関して、日頃からお世話になっている区役所管理職や小・中学校生徒や近隣住民を招待していたが、本年度は新型コロナウイルス感染防止対応のため招待は中止とした。

8 その他

校内のデジタル化の推進

(1) 教務システムのデジタル化

フルクラウド型校務支援システム「BLEND」（モチベーションワークス株式会社）を導入した。本格運用は4年度からであるが、3学期から試行運用を開始した。

授業出欠管理 教員連絡 保護者連絡などに活用をしている。

(2) タブレット端末の活用

全教員にタブレット端末（Surface）を配布、校務システム、授業での活用を促した。伴って3号館のWI-FIシステムを強化した。

授業での活用はまだ不十分であるが、Google Classroomを中心に研修を行った。今後さらに研修を重ねていく。

生徒への端末（iPad）配布は、4年度入学生から行う。

(以上)

令和3年度 事業報告

日本音楽学校幼稚園

《 令和3年度の教育環境についての変化 》

「外部状況」

- 1・令和3年度はコロナ感染症も2年目となったが新しく感染力の強い「オミクロン株」が猛威を振るっていた。一方で感染対策も浸透しワクチン接種が急がれた。
- 2・品川区私立幼稚園も大規模な幼稚園は毎日、数十人の感染との事でありクラスごとの休園をした園が多く聞かれ、園児の転園や教員の不足も聞かれた。又、全体的に園児数の減がみられる為、新聞広告をして品川区私立幼稚園をアピールする事が決まった。
- 3・今年度もコロナの影響により父親のリストラやテレワーク等による、父親の収入が充分でない現象も起き、母親も働かざるを得ない家庭も多くみられた。その為、保育園に預ける家庭が増加し、例年なら保育園から幼稚園に入ってくる事もあったが今年度は皆無であった。保育園は無償化に近い補助金が出ており、長時間の預かりや一年中休み無く運営されている点等から、働く母親の増加と共に就学まで保育園に在園する幼児が増加している。
- 4・公立幼稚園の中に定員に満たさぬ園が出ている。(例：伊藤幼稚園 5名の入園)

「内部状況」

- 1・令和3年度は1学期から3学期まで、通常の保育を行う事が出来た。但し、9月から12月にかけて、校庭、園庭の改修工事が入り、登降園時間の変更は行った。
又、運動会は工事の為、大ホールで学年別の分散となり、コロナ感染の影響から大きな行事の遊戯会や家庭教育学級も全て分散での開催となった。
様々な行事も園児の「学びの場」「直接体験の場」を確保したいとの思いから工夫を重ねて取り組んだ。(遠足、宿泊保育、買い物ごっこ、お別れ遠足等)
- 2・預かり保育の利用者も母親の就労により、月決めで利用する園児も多くなり特に年少児から利用の増加がみられる。その一方で、年中になると園児の園活動の範囲内での時間で仕事をもつ母親も増加している。
- 3・オミクロン株によるコロナ感染症は令和4年1月に入り教員や園児から発症し3月に入り一気に広まり年中、年少組は3月14日～17日まで休園した。
18日の卒園式は無事執り行う事ができたが卒園児1名と教員3名は出席する事は出来なかった。

- 4・令和3年度は5月から休職の教員も出た事もあり教員数が不足し（7名―3名）主任が昨年度に続きクラス担任を兼ねる状況であった。その後、8月に事務局付けで1名が入り11月から1名の増となり令和4年1月に休職中であった1名が復帰した。しかし、教員体験年数も少なく主任がクラス担任を持つ状況は続けざるを得ない状況であった。その為、全教員の負担増や2歳児教室や園庭開放もできず、令和4年度への園児募集対策は出来なかった。
- 5・退園児の状況：3月末で3名の退園。3名共、転園（公立の幼稚園に1名、アメリカンスクールに1名、兄の通う私立小学校の附属幼稚園に転園1名）

《 園 内 活 動 に つ い て 》

- 1・令和3年度の年間教育重点目標について
年間教育目標：「人間関係」の領域より『他の人々と親しみ、支えあって生活する為に、自立心を育て、人と関わる力を養う。』
ね ら い 1・幼稚園生活を楽しみ、自分の力で行動する事の充実感を味わう。
2・身近な人と親しみ、関わりを深め、工夫したり、協力したりして一緒に活動する楽しさを味わい、愛情や信頼をもつ。
3・社会生活における望ましい習慣や態度を身に付ける。
- 2・令和3年度はコロナの影響はあるものの、感染予防を保護者や教員に周知しながら1学期～3学期まで平常保育を続ける事ができたので、年間教育目標の「人とかかわり」については、各学年なりに成長がみられ達成できたと考える。
（校庭、園庭の改修工事が9月～12月まで入ったが登降園時間に工夫をしながら子ども達の好きなゲームや運動遊びを大ホールや遊戯室で行う事もできた。）
- 3・教員の資質向上への取り組みについて
・外部研修は品川区私立幼稚園協会も園長研修は実施されたが教員研修は実施されなかった。よって、当園としては「朝の打合わせの時間」を「内部研修」と位置付け園児や保護者に対しての連絡、報告、安全面などについて話し合い確認しあって教員の資質向上に努めた。
- 4・特別強化授業について
器楽指導：週に一度、渡邊先生の指導があり、基本の「バチの使い方」「鍵盤ハーモニカ」の吹き方等の基本を学び、年長の運動会では「鼓笛隊演奏」、遊戯会では「合奏」を演奏できるまでに成長した。
体育指導：月2回、飴本先生と櫻井先生の指導が年少、年中に入り園児や保護者から好評であった。年長は2学期に松本先生の組体操、リレーの指導が入り気合が入った様いきびきびと活動をしていた。
英 語：月2回 安本先生の指導があり、年中、年長児は英語の時間を楽しんだ。

5・園と保護者とのつながり

- ・個人面談は実施できたが、コロナ過の為懇談会はできなかったので、毎日の登降園時に必要な事は出来るだけ声をかけ、時には電話を掛けるなどと工夫をして保護者との関係を保つ様にした。

・保護者の会の活動について

会長さんとは、密に連絡をとりあう事が出来たが他の役員とは、仕事をもっている人も多く会議を持つ事が少なかった。

家庭教育学級に開催はコロナ過や教員数の不足も重なり、学年別ではあったが3学期に入り実施できた。園児の活動の様子をスライドで流しながら担任が説明を加えるという手法を取り入れ好評であった。

又、餅つきや生の演奏会も好評で来年も続けてほしいとの要望が出ていた。

6・預かり保育の強化について

今年度は平常保育が可能となり一斉休園もなかった。又、クラス閉鎖があっても、健康状態が良好であれば「預かり保育」の受け入れは可能とした事は好評であった。

年々、年少児の月決め利用が増えてきた事や、長期預かり保育を利用する園児の増加もみられ、正規の預かり保育担当者は2名欲しい。

7・幼稚園と小学校との連携について

宮前小学校との授業体験は実現した。又、宮前小学校からの職場体験も受け入れた。

三木小学校との「ふれあい交流」は、コロナ過の関係で今年度も中止となった。

8・地域との関係

- ・園庭開放・・・今年度はコロナ過や教員不足も関係し実施できなかった。

9・令和4年度への入園募集への取り組みについて

- ・校庭、園庭の工事が9月から入り運動会の見学や園庭解放もできず、教員不足も重なり2歳児教室の開催も実施できなかった。その為、令和4年度の入園児は半減した。

<年間事業>

基本方針 日本音楽学校保育園の基本方針・保育目標・保育方針を基本に保育課程に沿って全体的な計画・年間指導計画・月・週案を立案し、一人ひとりの発達・発育に合わせて丁寧に関わり、保育を実践している。

保育実践

- ・今年度も新型コロナウイルスの影響で、行事の中止・延期・縮小と計画通りにはいかない事が多くあった。
- ・保護者会・保育参加・音楽会は中止とし、運動会や卒園式などは参加人数を限定し行う。
- ・8月・3月には園児各1名の陽性が判明し、0歳児クラスのみ休園の措置をとった。幸い他の園児には感染が認められず、保育を再開できた。毎日の検温をはじめ、手洗いや、こまめな洗濯や消毒など、引き続き徹底して行っている。
- ・戸外遊びも蜜にならぬように配慮し、学校グラウンドや、今年度より幼稚園2歳児教室等、法人施設も多く利用しながら体を動かし遊ぶ事ができた。改修工事のため使用できない期間もあったが、新たなグラウンドで遊べるようになると、とても喜んで遊んでいた。近隣の公園は混みあう事も多くあり、予定を変更し他の公園に移動する事がある。法人施設が利用でき、のびのびと遊べる環境は保護者の方も喜んでいて、幼稚園2歳児教室では保育園と違った玩具もあり、広々としているので子ども達もとても喜んでいて、幼稚園と連携を図り次年度も継続していきたい。
- ・外部から講師を招いての活動（べんちゃんと遊ぼう・英語）は、子ども達も積極的に活動に取り組む姿があった。保護者より、製作したものを家庭でも楽しむ姿が翌日の連絡帳に記入されていることも多くあり、大変好評である。新たにはじまった「英語で遊ぼう」ではすぐに英語の歌を口ずさみ、アルファベットに興味を持つなど興味関心が深まった様子がある。
- ・今年度より、ゆたか図書館の方を招いてお話を開催。いつもと違う絵本や、大型紙芝居をよく見ていた。今後も園に招いて、絵本や楽しいお話に触れる機会を持つ。
- ・2歳児はベランダにて季節の野菜を通年育て、水やりや育つ過程をととても楽しみにしており、また給食で提供し喜んで食べていた。
- ・今年度はプールが中止となり、水遊びを行う際は学校グラウンド脇にて行った。校舎通路屋根が日よけとなり、使いやすくよかった。

保護者支援

- ・今年度も引き続き感染予防には十分に注意し、手消毒・検温など協力をして頂く。
- ・保護者会をはじめ、保育参加など保護者が参加できる行事が開催できなかつた。保護者からの要望もあり日常の様子を動画配信する。保護者のみアドレスを限定的に公開する形をとり、保護者からも大変好評だったので次年度も引き続き行っていく。
- ・保護者の方に外国籍の方も増えており、各クラスは個々に応じたサポートや援助を行っていた。宗教食にも配慮し保護者の希望になるべく添うように配慮した。
- ・保護者より要望があり、次年度は少人数での保育参加の開催・出欠のアプリ管理を希望するという意見もあった。

地域交流

- ・今年度も交流事業は中止となった。

研修

- ・園内研修は「リトミック」を学ぶ。園内に高等学校講師の柘植先生を招いて、実践形式で行う。研修翌日から簡単なリズム遊びを保育に取り入れて、子ども達と楽しんだ。新型コロナウイルス感染拡大となり、1回は延期、次年度に再度学ぶ。
- ・園外研修も積極的に行い、品川区主催ののびしなプロフェッショナルスクール研修や東京都の厚生労働省主催の研修に参加し、知識や技術の習得をしている。
- ・地域連携協議会に参加し、公・私立の垣根をこえて様々な職員との交流をもてた。

職員分担・勤務形態

- ・新型コロナウイルスの影響で、職員の家族が罹患したり、預け先の保育園や小学校が休校となり出勤できないという事が多々あった。家庭への自粛要請は出さなかったものの、余裕のある人員配置等、安全な保育体制を整える必要性を感じた。
- ・リーダー会の回数を増やし、伝達事項等はその場を利用し、夜の職員会議時間の短縮を図った。又クラスの打ち合わせも多く持てるよう調整できた。
- ・産休から2名の職員が復帰し経験年数も豊富なので心強く、保育の幅も広がっていた。
- ・看護師が非常勤勤務となり、健診や身測、怪我等専門性が深まり、保護者にもより安心感が強まった。

1期（4・5・6月）	5月より0歳児2名入園	6月より0歳児2名	2歳児1名
園児受け入れ・・・4月1日現在 0歳児4名 1歳児11名 2歳児11名 計26名 新型コロナウイルスの影響からか、品川区全体的に保育園の希望者が例年に比べ少ない。 4月予定していた園内行事は中止。各クラスの保護者会は資料配布・保育参加は中止とする。 健康診断（4月） 歯科検診（6月） 2歳児は苗植えを経験する。			
2期（7・8・9月）	9月より0歳児1名入園	8月1歳児2名	
・プールは中止 水遊びや、沐浴・シャワーは行う。今年度より学校グラウンドにて行う。 ・七夕会・お祭りは在園児のみで楽しむ。規模は小さいが雰囲気や行事の楽しさを味わえた。 ・敬老会は中止 ・英語で遊ぼう 新たな活動として2歳児のみ行う。（年間6回） ・8月園児0歳児クラス1名 コロナウイルス陽性と判明 0歳児クラス閉鎖・担任・アルバイトが濃厚接触者となり自粛			
3期（10・11・12月）			
・運動会は人数制限をして開催する。グラウンド工事のため、中ホールでの開催となった。 ・ハロウィンでは、近隣の商店の方や保護者の方よりお菓子を頂く。 ・高齢者のデイケア訪問は中止 11月・第1回拡大委員会・個人面談は希望者のみ行う・歯科検診 12月・小さな音楽会中止 ・お楽しみ食事は感染症に配慮し、個人皿に盛り付ける等して楽しむ。			
4期（1・2・3・月）			

- ・新年おめでとう会・節分・ひな祭りは園内で楽しむ。保護者会は中止・資料のみ配布する。
- ・うさぎ組の親子遠足は中止とし、近隣の公園で遠足ごっこを楽しむ。
- ・2歳児クッキング（ピザ作り） ・第2回拡大委員会
- ・新入園児オリエンテーションを無くし、面接時に丁寧に説明を行う。（今後もその予定）
- ・さようならの会を、今年度より最終土曜日に行う。小ホールにて卒園児・その保護者のみの参加とした。